



営農 振興係 齋藤 健司

* 今月号は私が担当しました。

穀物の貯穀害虫について

貯穀害虫は、保管中の穀物を食害する厄介な虫です。今号では、米や麦などの穀物に発生しやすい貯穀害虫をご紹介します。

貯穀害虫の種類について

貯穀害虫は、確認されているだけでも、日本国内に30種類ほどいると言われています。その中でも米、麦に発生しやすい害虫は、次の4種類です。

① コクゾウムシ

貯穀害虫の中で、最も一般的に知られている害虫です。成虫は体長3mmほどで、漢字では「穀象虫」と書き、その名の通り、ゾウの鼻のような長い口器を持ち、口器で穀粒に穴を開け、その中に卵を一つずつ産み付けていきます。孵化

した幼虫は穀粒内で成長します。28℃前後の気温で活発に発育・繁殖し、爆発的に増加します。

② コクゾウムシ

コクゾウムシと似た系統でコクゾウムシがいます。コクゾウムシと形態的に類似していて、体長2.5mmほどです。コクゾウムシが飛翔出来るのに対し、日本にいる系統のコクゾウムシは、飛翔出来ない点が異なりますが、微小なため、目視で見分けるのは困難です。

③ ノシメマダラメイガ

メイガ類は、チョウ目メイガ科に属する昆虫で、その多くは野性の蛾で、農業害虫として知られているものも少なくありません。その中でも穀物類に発生しやすいのがノシメマダラメイガです。穀粒の中に卵を産み付けるコクゾウムシとは違い、穀粒の表面や周囲に卵を産み付けます。孵化した幼虫は外側から食害し、糸で繭を作つて蛹になり成虫が羽化します。なお、成虫は繁殖活動を行うだけで、食害はしません。

④ バクガ

穀物を好んで食害する害虫で、ノシメマダラメイガと同様に、穀粒表面などに卵を産み付け、孵化

した幼虫が内部へ侵入し食害しますが、様々な穀物での被害があります。羽化した成虫は屋内で交尾産卵する場合と、屋外に出て収穫前の麦穂に産卵する場合があります。屋外の麦穂に産卵した場合は、幼虫が穀粒内部に潜んでいる状態で

表 貯穀害虫別一覧

貯穀害虫名	成虫発生期間	卵期から成虫になるまでの日数			産卵数
		卵	幼虫	蛹	
コクゾウムシ	4月下旬～10月	5日	20日	5日	約100～200個
ココクゾウムシ	4月下旬～10月	3日～5日	20日～30日	5日～10日	約100～150個
ノシメマダラメイガ	4月下旬～11月中旬	4日	20日	5日～7日	約100～200個
バクガ	6月～11月	4日～7日	25日～38日		約50個

収穫・貯蔵され、倉庫内での発生源となります。

貯穀害虫発生の抑制について

これらの害虫は、穀物貯蔵施設や倉庫で大量発生する事が多く、JAでは、くん蒸剤処理などによる防除・駆除を行っています。しかし個人宅では、薬剤による防除は困難なため、倉庫や米保管場所・穀物乾燥機等の清掃を徹底し、餌となる穀物やその屑など、害虫の発生源を取り除く事が繁殖を抑制する点で重要です。

まとめ

貯穀害虫は、倉庫等に落ちていく穀物の匂いに引き寄せられ、その場で繁殖し、上記表のとおり、相当数の卵を産卵し、繁殖してしまいます。今後、気温が上昇し、貯穀害虫にとつて、活動しやすい時期となります。現在は精米技術も発達し、貯穀害虫の姿を見かける事も少なくなりましたが、常に生活圏に潜んでいます。穀物はしっかりと密閉できる容器などに入れ保管し、定期的に倉庫等を清掃するように心掛けましょう。